

## 肉腫症例に対する加温出力の工夫

医療法人社団 鶴友会 鶴田病院

診療技術課 ME室 原田 美砂子、奥田 みどり、中村 健二

医局 山口 祐二、川畑 幸嗣、鶴田 豊

【目的】約6年という長期生存が得られている症例・患者自身が食生活に気を付け高出力が得られた症例・温熱療法を行った事でQOLの向上が得られた症例を報告する。

【症例1】78歳男性。右骨盤骨肉腫。腸間膜播種性転移、傍大動脈リンパ節後腹膜多発転移と尿管浸潤、左重度水腎症と右軽度水腎症による腎不全で右尿管ステント留置、右肺尖部転移、右側壁表在性膀胱癌(UC, G1, pTa)、生活習慣病複数合併。温熱(HT)化学療法は、H24/08/21～H29/06/30の間にHTを218回、GEM600mg3回、GEM1000mg65回施行。ステント胃内温度センサー留置下にHT再開。

【症例2】68歳男性。右鎖骨上窩平滑筋肉腫、肺癌、多発性両転移性肺癌。温熱化学療法はH28/8/8～H29/6/30の間にHT43回実施。

【症例3】18歳女性。骨盤内肉腫、血小板減少症、腫瘍による神経圧迫で左下肢麻痺、反応性抑うつ状態、QOL低下、癌性疼痛、アトピー性皮膚炎。温熱化学療法はH27/12/15～H29/6/28の間に20回実施。

### 【結語】

患者個々に応じた治療を提供する事が大事であり、今後も患者に応じた加温方法を提供しなければならない。